

タイトル：日本語で日本を学ぼう！①文学, 文芸  
～『狂言』ってなんだろう？～

使用教材：NHK for school (<http://www.nhk.or.jp/school/>)

対象：中・上級レベルの大学生 (10人)

授業時間：1時間30分

目標：

- ① 日本の文学・文芸を体験する。
- ② 「狂言」とは何か説明できるようになる(日本語とロシア語で)。 [can-do]

評価方法：

- ・教師の質問に答える。
- ・作文(宿題)

授業案：

活動①「狂」と「言」 2つの漢字を辞典で調べさせる。

狂・・・crazy

言・・・words

活動② ストーリーのあらすじ

- 「学習シート」と「古文のテキスト」をくぼる。
- ビデオ『柿山伏(パート1)』を見る。(1回目) ※全部通しで。
- ビデオ『柿山伏(パート1)』を見る。(2回目) ※先生が質問をしながら。

- ・登場人物は？
- ・あらすじは？(「山伏が柿をぬすみ食いして畑の持ち主にこらしめられる」)
- ・もし、あなたが自分の畑の柿を盗み食いされたら、その犯人をどうしますか？
- ・登場人物は、何をしていますか？
- ・山伏は、なんのもののまねをしていますか？

※質問をしながら、同時に語彙の説明をする。

活動③ 古文のテキストを音読する

※自由に気づいたことを答えさせる。

- ・どういういみですか？
- ・知らない(見慣れない)ことばや文法はありますか？

#### 活動④. 「狂言」について知る

- 学習シートの質問を全員でいっしょに読んで理解する。
- ビデオ『狂言の歴史』を見る。(1回目) ※全部通して。
- 学習シートをチェック、答え合わせ。
- ビデオ『狂言の歴史』を見る。(2回目) ※先生が質問をしながら。

- ・ 『狂言』はいつできましたか？
- ・ 『狂言』の特徴はなんでしょう？
- ・ 楽しい劇ですか？悲しい劇ですか？
- ・ 誰が見るか？
- ・ 『所作』ってなんですか？

その他

人数, 背景, 服装

話すスピード, 声の調子

音を口で表す(体験)

#### 活動⑤. 『柿山伏(パート2)』を見る。

※ 活動④で勉強した特徴に注目しながら。

#### 活動⑥. もう一度ビデオを最初から最後まで見る。

※ スクリプトを配る。

#### 活動⑦. 授業のおさらい

※ 先生の質問に答える。

#### 活動⑧. 課題を出す。

課題は、「学習シート」を元にした「作文」。ロシア語と日本語でシートに記入して提出。

日本語で日本を学ぼう！①日本の文学・文芸 (柿山伏)

～『狂言』ってなんだろう？～

《学習シート》

登場人物

( ) と ( )

キーワード

(辞書で調べてみましょう)

こらしめる

梢(こずえ)

柿(かき)

ぬすみ食い

烏(からす)

鳶(とび)

からかう

物まね

弓矢(ゆみや)

鉄砲(てっぽう)

『狂言』って何ですか？

- ・狂言は、( ) 年前に生まれました。それは日本の ( ) 時代です。
- ・喜劇(きげき) = 狂言は (おもしろい・かなしい) 劇です。
- ・所作(しよさ) = \_\_\_\_\_。

★ロシアの劇と何が、どちらがいますか？

人数

服装

背景

★狂言師の話し方はどうですか？

話す速さ

声の調子

音の表し方

狂言『柿山伏』

畑主「ほほう。あの柿（かき）の梢（こずえ）へかくれたを、人かと思えば人ではない」。

山伏「まず、人でないと言うによって心（こころ）安（やす）い」。

畑主「あれはからすじゃ」。

山伏「よよう。みどもがからすなどに見(み)ゆるかしらぬ」。

畑主「総（そう）じてからすというものは、鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか」。

山伏「こりゃ鳴かすばなるまい」。

畑主「おのれ、鳴かすば人よ。人ならばその弓矢（ゆみや）を持ってこい。射殺（いころ）いてやろう」。

山伏「こかあ。こかあ。こかあ、こかあ、こかあ、こかあ」。

畑主「はははははは。さてさて、おもしろいことじゃ。もそつとなぶってやろう」。

狂言『柿山伏』

畑主「ほほう。あの柿（かき）の梢（こずえ）へかくれたを、人かと思えば人ではない」。

山伏「まず、人でないと言うによって心（こころ）安（やす）い」。

畑主「あれはからすじゃ」。

山伏「よよう。みどもがからすなどに見(み)ゆるかしらぬ」。

畑主「総（そう）じてからすというものは、鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか」。

山伏「こりゃ鳴かすばなるまい」。

畑主「おのれ、鳴かすば人よ。人ならばその弓矢（ゆみや）を持ってこい。射殺（いころ）いてやろう」。

山伏「こかあ。こかあ。こかあ、こかあ、こかあ、こかあ」。

畑主「はははははは。さてさて、おもしろいことじゃ。もそつとなぶってやろう」。

おはなしのくに

柿山伏

scene 01 ぬすみ食いを見つけた山伏は

「これは出羽（でわ）の羽黒山（はぐろさん）よりいでたる、かけ出（で）の山伏（やまぶし）です」——おれは、山形県の羽黒山からやってきた“山伏”っちゅうもんや。「これはこの辺（あたり）に住まいいたす、耕作人（こうさくにん）でござる」——わたしは、この辺りに住んでいる畑の持ち主です。……山伏が柿（かき）をぬすみ食いしてこらしめられるという、狂言（きょうげん）のおはなし。題して、『柿山伏』。ぬすみ食いを畑の持ち主に見つけてしまった山伏はあわてて柿の木にかくれますが…。

scene 02 「さんざんになぶってやろうと存ずる」

畑主「さてもさても、おろかな山伏じゃ。あのわずかな柿（かき）の梢（こずえ）へかくれて、わが姿（すがた）が見えぬと思うそうな。よいよい。あのようなおろかな山伏は、さんざんになぶってやろうと存（ぞん）ずる」。

scene 03 「あれはからすじゃ」

畑主「ほほう。あの柿（かき）の梢（こずえ）へかくれたを、人かと思えば人ではない」。山伏「まず、人でないと言うによって心安い」。畑主「あれはからすじゃ」。山伏「よよう。みどもがからすなどに見ゆるかしらぬ」。畑主「総（そう）じてからすというものは、鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか」。山伏「こりゃ鳴かすばなるまい」。畑主「おのれ、鳴かすば人よ。人ならばその弓矢（ゆみや）を持ってこい。射殺（いころ）いてやろう」。山伏「こかあ。こかあ。こかあ、こかあ、こかあ」。畑主「はははははは。さてさて、おもしろいことじゃ。もそつとなぶってやろう」。

scene 04 「ありやさるじゃ」

畑主「はあはあ。あれをようよう見れば、からすではのうて、ありやさるじゃ」。山伏「よう。この度（たび）はみどもがさるなどに見ゆるかしらぬ」。畑主「総（そう）じてさるというものは、人を見れば身せせりをして鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか」。山伏「こりゃ鳴かすばなるまい」。畑主「おのれ、鳴かすば人よ。人ならばそのやりを持ってこい。つき殺（ころ）いてやろう」。山伏「きゃあ。きゃあ。きゃ、きゃ、きゃ、きゃ、きゃ、きゃ、きゃ、きゃ、きゃあ」。畑主「はははははは」。

scene 05 山伏をからかう畑主

畑主は山伏をからかってやろうとします。「あそこにかくれたんは、人か思たら人やないな。あれはカラスやな。カラスちゅうんは鳴くもんやけど、おまえは鳴かんのか。鳴かんかったら人やから、弓矢（ゆみや）で射殺（いころ）したるぞ！」。あわてて、「カア～、カア～、カア～！」と鳴く山伏。すると畑主は、「よう見たらカラスやのうてサルやな。サルちゅうんは人を見たら毛づくろいして鳴くもんやけど、おまえは鳴かんのか？」。またあわてて「キャ、キャ、キャ、キャ、キャ～！」とサルの物まねをする山伏。「鳴いとる鳴いとる。はははははは！」と畑主は大わらい。

#### scene 06 気持ちや動作を表現する「所作」

狂言（きょうげん）は、今からおよそ600年前の室町時代に生まれました。狂言は、だれもがわらって見られる喜劇（きげき）です。狂言師（し）は登場人物の気持ちや動作を、「所作（しよさ）」という決まった形で表現（ひょうげん）して見せます。たとえば「洗たくをする」。服を水につける動作をしながら、「がわ、がわ、がわがわがわがわがわがわがわ」と言います。「のこぎりを引く」は、のこぎりを引く動作で、「ずか、ずか、ずかずかずかずかずかずか」。あるいは「茶わんをわる」は、「いやあ、えーい」と茶わんをたたきつけて、「がらり。ちーん」。

#### scene 07 こまりはてた山伏は

その後、山伏は...、「よう見たらカラスでもサルでものうて、トンビやな。トンビちゅうんは羽をのぼして鳴くもんやけど、おまえは鳴かんのか。鳴かんかったら人やから、鉄砲（てっぽう）でうちころしたるぞ！」と言われ、あわてて「ピー、ヒョロヒョロ〜」。すると、「トンビちゅうんは鳴いたあととはとぶもんやけど、おまえはとぼんのか？」と畑主。こまりはてる山伏は、「ほらとぶで、とぶで〜！」といわれ、「ピー、ヒョロロ〜！」と木の上からとんで、「あいた！ いたたた！」と地面に落ちてしまいました。「ほーれ、とうとう落ちよった。ほな、帰る...」と畑主。

#### scene 08 「ようよう見れば、ありや鳶じゃ」

畑主「さてさて、物まねの上手な山伏じゃ。ちと、困（こま）らいてやりたいものじゃが、いや、いたしようがござる。はあはあ。あれをようよう見れば、からすでも、さるでものうて、ありや鳶（とび）じゃ」。山伏「よう。この度（たび）はみどもが鳶などに見ゆるかしらぬ」。畑主「総（そう）じて鳶というものは、羽をのして鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか」。山伏「また鳴かずばなるまい」。畑主「おのれ、鳴かずば人よ。人ならばその鉄砲（てっぽう）を持ってこい。うち殺（ころ）いてやろう」。山伏「びい。よろよろよろよろよろ」。畑主「ははははは。ここでこそ、困らいてやろう」。

#### scene 09 「飛びそうな」、「びい」

畑主「総（そう）じて鳶（とび）というものは、鳴いたあとは必（かなら）ず飛（と）ぶものじゃが、おのれは飛ばぬか」。山伏「これはいかなこと。この高い高い空から飛べと申す。なにとしたものであろう」。畑主「さればこそ困（こま）りよった。ちと、うかいてやろう。はあ。飛びそうな」。山伏「びい」。畑主「飛びそうな」。山伏「びい」。畑主「飛びそうな」。山伏「びい」。畑主「飛びそうな」。...山伏「びい、びい、びい。びい。よろよろよろ。ああ痛い。ああ痛い、痛い、痛い」。畑主「さればこそ落ちよった。もはやもどろう」。

日本語で日本を学ぼう！

①文学, 文芸 (柿山伏)

～『狂言』ってなんだろう？～

《作文》

テーマ：狂言とは何ですか？

※ 学習シートを参考にしながら日本語とロシア語で書きましょう。

日本語

ロシア語